

大阪大学産業科学研究所など5附置研究所間をまたがる連携事業 物質・デバイス領域共同研究拠点活動報告会 及びダイナミック・アライアンス成果報告会

北海道大学電子科学研究所、東北大学多元物質科学研究所、東京工業大学化学学生命科学研究所、大阪大学産業科学研究所、九州大学先端物質化学研究所から成る全国規模のネットワーク型共同研究拠点「物質・デバイス領域共同研究拠点」の第9回活動報告会及び同拠点の機能強化プロジェクト「人・環境と物質をつなぐイノベーション創出ダイナミック・アライアンス」の平成30年度成果報告会が7月1日～2日、大阪千里ライフサイエンスセンターにおいて『進化し続ける共同研究拠点組織』と題して開催された。

1日目は、大阪大学産業科学研究所の菅沼克昭所長からの開会挨拶により開始し、来賓挨拶として文科省研究振興局学術機関連課の西井知紀課長より、ネットワーク型の特徴を活かした同拠点の活動が研究の基盤強化と新たな学術研究の展開に寄与するもので、国立大学の機能強化に貢献する組織・制度に期待を込めた挨拶が述べられた。

続いて、当番校である大阪大学を代表して

大阪大学の鈴木敏之理事(八木康史理事・副学長代理)より、挨拶が行われた後、拠点本部長である東北大学多元物質科学研究所の村松淳司所長、アライアンス運営委員会委員長である大阪大学産業科学研究所の関野徹教授より、それぞれ活動概要及び実績の報告が行われた。

次に、「ダイナミック人材展開・若手育成セッション」では、COREラボ共同研究課題のPIである基礎生物学研究所の村田隆准教授、東北大学多元物質研究所の奥山大輔助教、COREラボ共同研究課題の分担者である岡山大学の仁科勇太研究教授よりそれぞれ講演が行われ、「研究力強化セッション」では、東北大学多元物質研究所の蟹江澄志教授より講演が行われた後、今年度より新設された「物質・デバイス共同研究賞」の受賞講演として、大阪産業技術研究所の丸山純研究主任、東京理科大学の根岸雄一教授より各講演が行われた。「国際連携セッション」では、北海道大学電子科学研究所の中村貴義教授より講演が行われた。

初日は来賓各位を含めた約217名の参加があり、初日講演終了後には、「第1回物質・デバイス共同研究賞」授賞式が開催され、全10件の受賞研究課題を対象に、研究代表者へ表彰状が授与された。続く意見交換会には、163名の参加があり、講演セッションの合間で開催されたポスターセッション(全97件掲示)を含め、活発な情報交換が行われた。

活動報告会および成果報告会の参加者

翌2日目は、約209名の参加があり、「異分野融合セッション」では、大阪大学産業科学研究所の谷口正輝教授、東京工業大学化学生命科学研究所の福島孝典教授、大阪大学産業科学研究所の永井健治教授よりそれぞれ講演が行われ、「多様な共同研究拠点セッション」では、東北大学多元物質科学研究所の高田昌樹教授より「次世代3GeV放射線計画の概要」について講演があり、「放射線災害・医科学研究拠点」を形成する広島大学原爆放射線医学研究所の田代聡所長(同拠点本部長)からは「物質・デバイス領域と放射線災害・医科学領域の緩やかな連携による新しい研究展開」と題し、同拠点の活動概要と本拠点との連携に関する特別講演が行われた。

最後に、外部有識者から、実用化を意識した研究成果発表への高い評価並びに研究予算の低さ・産学連携の取り組み方等の課題について講評が行われた後、拠点専門委員会委員長である東北大学多元物質科学研究所の垣花真人教授による閉会挨拶にて終了した。

